

項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度
許可病床数	床	252	252	252
常勤職員数	人	688.2	668.7	709.1
延べ外来患者数	人	175,810	189,054	181,620
延べ入院患者数	人	69,698	78,198	76,648
新入院患者数	人	8,023	9,159	9,307
病床利用率	%	75.8	85.7	83.3
平均在院日数	日	9.1	8.9	8.6
救急応需率	%	67.5	68.9	68.6
救急搬送件数	件	4,142	4,781	4,727
CCU ネットワーク救急搬送件数	件	256	210	209
急性大動脈スーパーネットワーク救急搬送件数	件	61	57	58
患者紹介率	%	51.1	50.6	60.4
患者逆紹介率	%	45.7	56.6	72.4
臨床研究実施件数	件	19	24	48
国内治験実施件数	件	4	4	2
国際共同治験実施件数	件	12	10	12
製造販売後調査実施件数	件	23	34	24
患者満足度調査結果（外来）	%	-	93.0	93.0
患者満足度調査結果（病棟）	%	-	99.0	98.3

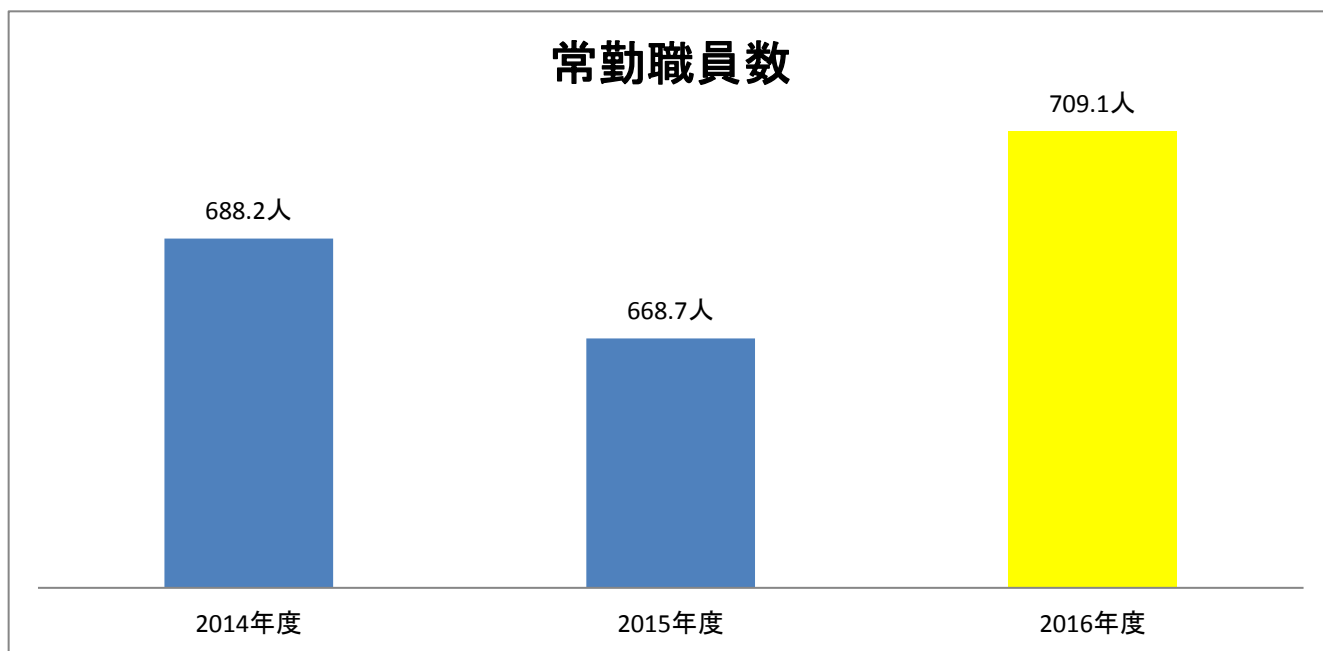
【事業ハイライト】

2016年度は前年度に引き続き1人でも多くの患者さんを受け入れるために効率的な病床の運営と近隣開業医とのカンファレンスの開催、救急車の受け入れ件数増加への取り組みに注力して参りました。

また運営管理体制においても質の向上を図るべく公益財団法人日本医療機能評価機構が認定する「病院機能評価 3rdG Ver.1.1」に基づく監査を受け、更新認定を得る事ができました。（2016年3月認定・6月交付）

今後の事業活動にあたっては患者さんの受け入れに継続して注力していく事と合わせて患者さんからのご指摘を多く頂いている待ち時間の問題や職員の接遇、デイルームなどの居住環境への配慮等サービス面の改善を行ってまいります。

各指標の数値及びコメントは以降のページをご覧ください。



各年度 3月 31日現在

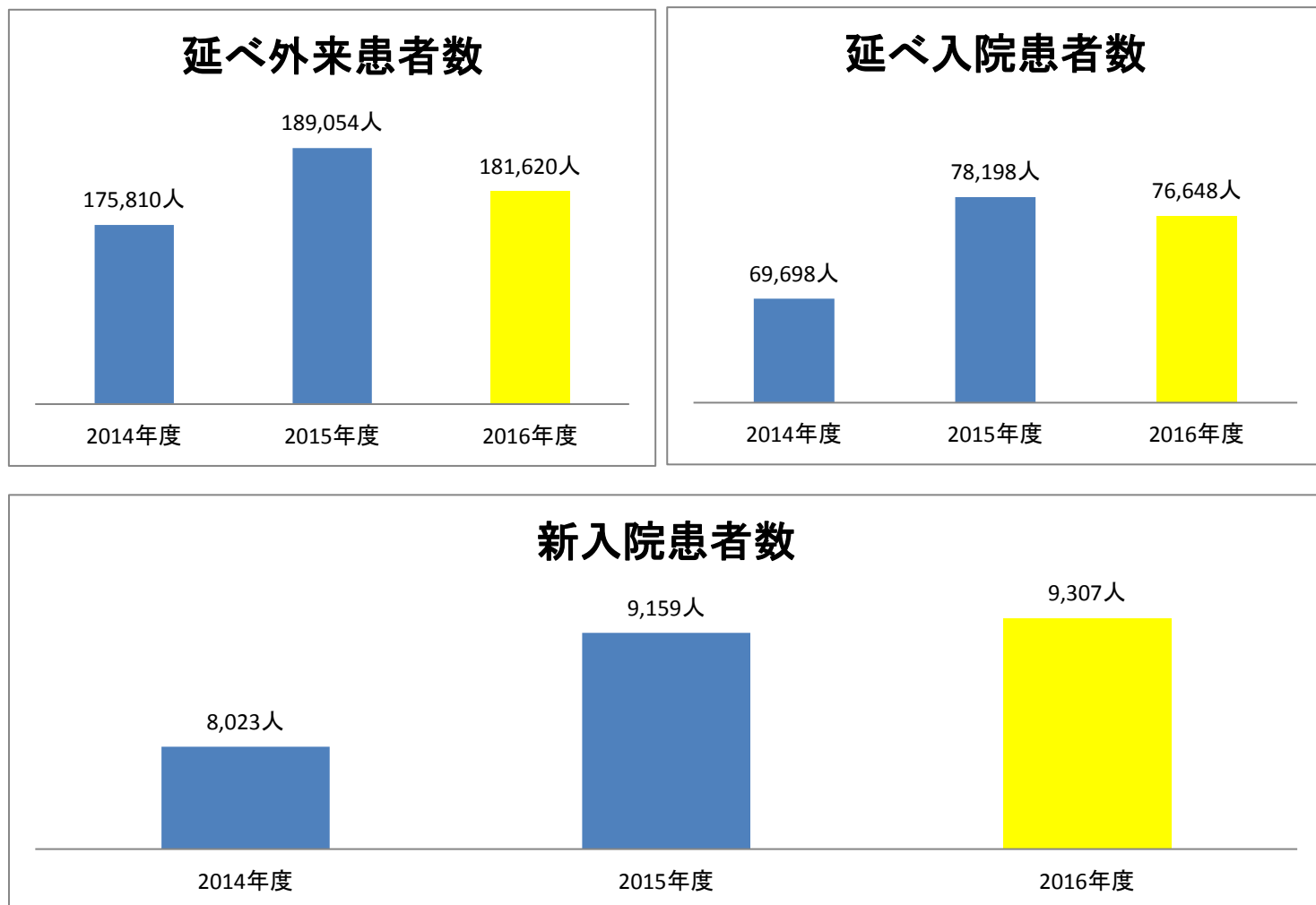
■ 多数精鋭によるチーム医療の体制作り

常勤職員数は当院が正規雇用した職員数（非常勤職員は常勤換算して集計）を示しています。

医療機関は多職種のスペシャリスト（医療従事者）と病院の経営管理や医療従事者をサポートする事務職員で構成されています。2016年度は前年度より40.7名増員しました。

当院が立地する杉並区内には大学病院がなく総合的な医療機能を提供できる病院も限られており、区内に在住する方が傷病した場合は区外の病院を受診する事が多い状況です。

医療の地域完結を目指す上で当院は1人でも多くの患者さんを受け入れる事と、多くの専門的な疾患の治療に対応する事を使命と考えており、多くの医療者や医療者をサポートする人材を採用、育成し続けていく必要があります。

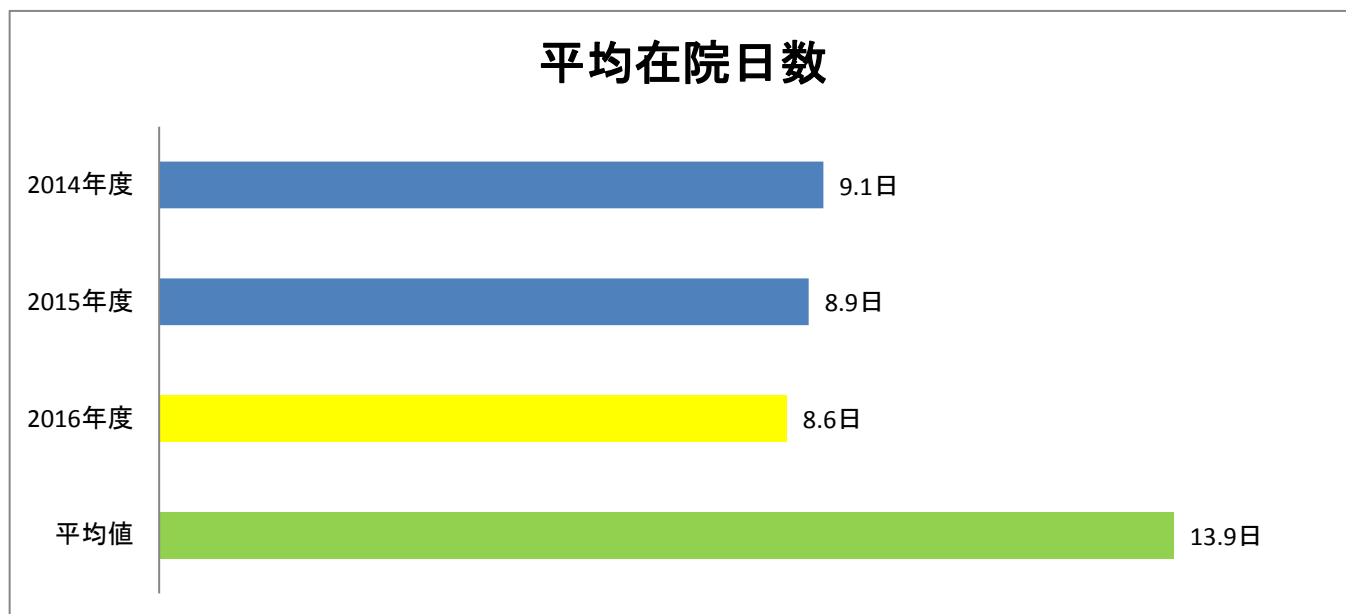


■ 逆紹介の推進により外来数が減少もする年間平均では増加傾向

本指標は当院を利用した患者数の推移を示しています。2016年度は延べ外来患者数において前年度比で約3.3%の減少、延べ入院患者数において約2.0%の減少、新入院患者数において約1.7%の増加となりました。

2016年度は患者さんを症状や回復状況に応じて地域の開業医へ紹介する取り組み（逆紹介）を推進し、治療がすぐに必要な患者さんの受け入れに注力する急性期病院に求められる機能の充実を進めて参りました。その結果、逆紹介した比率は前年度から15.8%増加しており2016年度の延べ外来患者数の減少に結び付いたものと考えられます。

2014年度を基準とした3か年の年間平均成長率では、延べ外来患者数で1.6%、延べ入院患者数で4.9%、新入院患者数で7.7%の増加傾向にあり、それぞれの状況に応じた診療技術、人員数の維持、リスク管理をより強化していく必要があります。



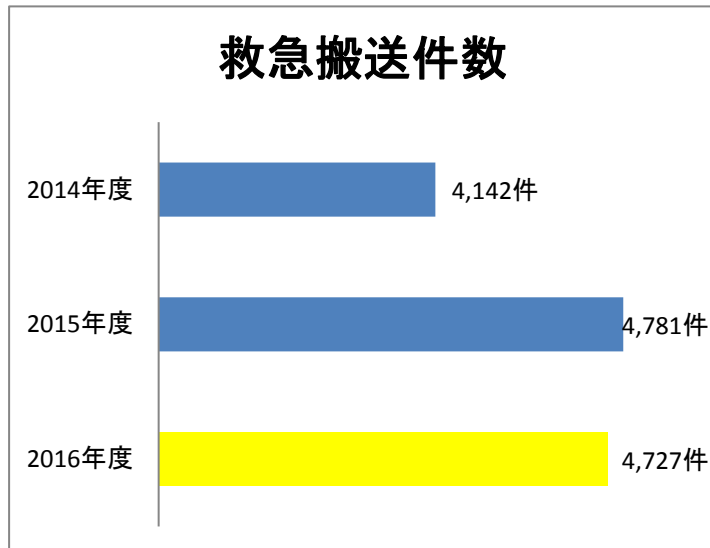
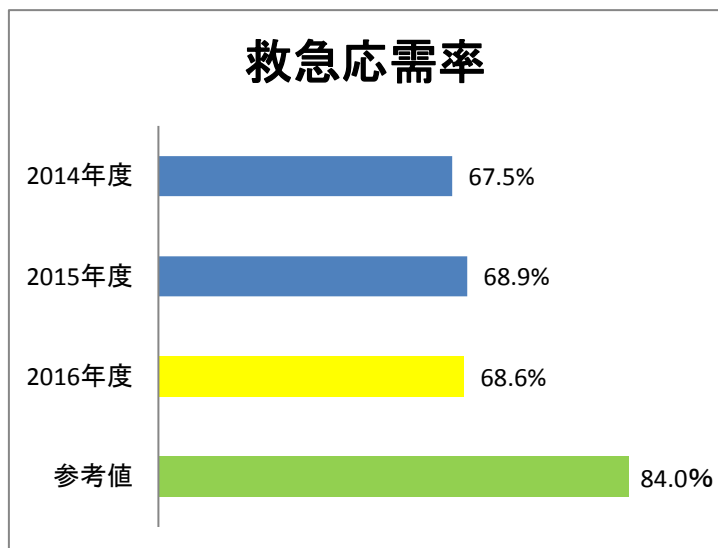
参考値出典：平成 28 年（2016）医療施設（動態）調査 病院報告の概況 表 5 病院の平均在院日数（東京都）

■ 平均在院日数は 3 か年連続で減少

平均在院日数は 2016 年度中に入院した全ての患者さんが治療から退院までに要した平均の日数を示しています。2016 年度は前年度より 0.3 日間短縮致しました。

平均在院日数が短ければ短い程、病床の回転率が高く病床の有効利用が出来ていると考えられます。入院中から多数の医療職種がチームとなって退院支援を行う事でご自宅や施設への早期復帰を可能とし、その分、空いた病床で救急患者の受け入れや他に治療を要する患者さんの受け入れが可能となります。

ベッドコントロールを専属して担う事務職員を配し、入院要請に速やかに応えると同時に治療を終えた患者さんを速やかにかかりつけ医に紹介できる事が平均在院日数の短縮につながっております。



参考値出典：日本病院会 2016年度 QI プロジェクト結果報告 No.10 救急車・ホットライン応需率
一般病床 346 施設平均値

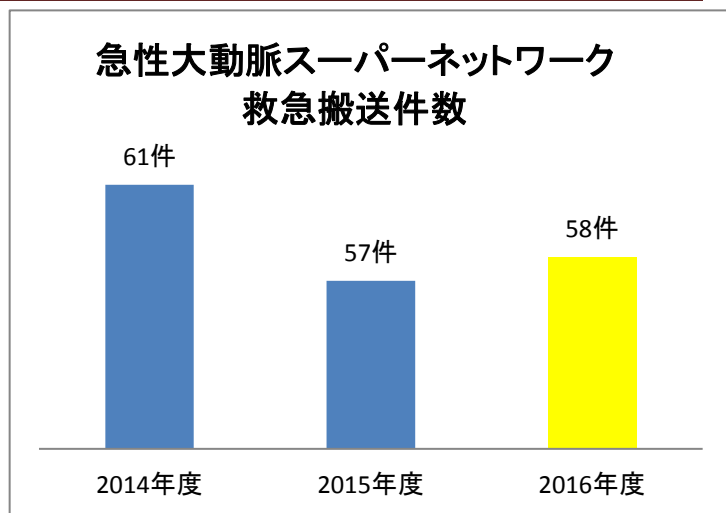
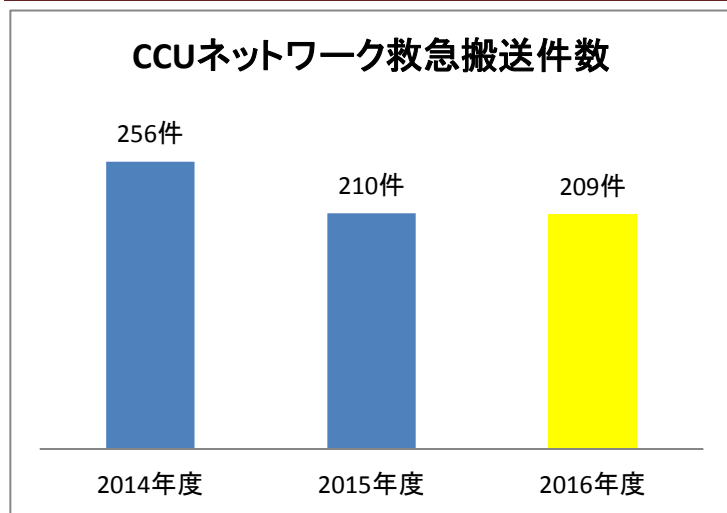
■ 救急要請数の増加傾向に応える救急受け入れ体制づくり

救急応需率は救急隊からの患者受け入れ要請に応えた（応需）比率を示し、搬送件数は実際に当院へ搬送された患者数を示しております。2016年度は2015年度と比べ応需率、搬送件数ともわずかに減少致しましたが、救急隊からの受け入れ要請件数は2015年度と2016年度を比較すると約7.4%増加する中で受け入れに応えた件数も増加しております。

救急患者の受け入れにあたっては、要請時の受け入れ態勢の他に治療後の全身管理の必要や社会的入院の受け入れに対する是非等の多くの検討と意思決定が必要となるため、経年の傾向を見つつ対処して参ります。



救急隊と連携する事は迅速な救急患者の受け入れを行う事で大きな意味を持ちます。当院では年1回杉並区、練馬区の救急隊を中心に症例検討会を開催し病院、救急隊相互の信頼関係の構築に努めています。2016年度には荻窪消防隊の主催する救急車同乗訓練に当院の看護師が参加致しました。



■ 心臓疾患治療の拠点として救急医療を推進

2008年4月に、当院が立地する杉並・練馬エリアの循環器系疾患への対策を目的として心臓血管外科と循環器内科で組織する「心臓血管センター」を設立致しました。心臓血管センターでは24時間、365日の救急受け入れと緊急のカテーテル検査・治療と緊急開胸手術が可能です。CCUネットワーク救急搬送件数は当院が加盟する東京都CCUネットワークを通じて受け入れた救急車の台数を示しており3か年とも200件以上の受け入れを行っております。

急性大動脈スーパーネットワーク救急搬送件数は緊急大動脈疾患を対象とした指標です。



ハイブリッドカテーテル室 (別館 2F)

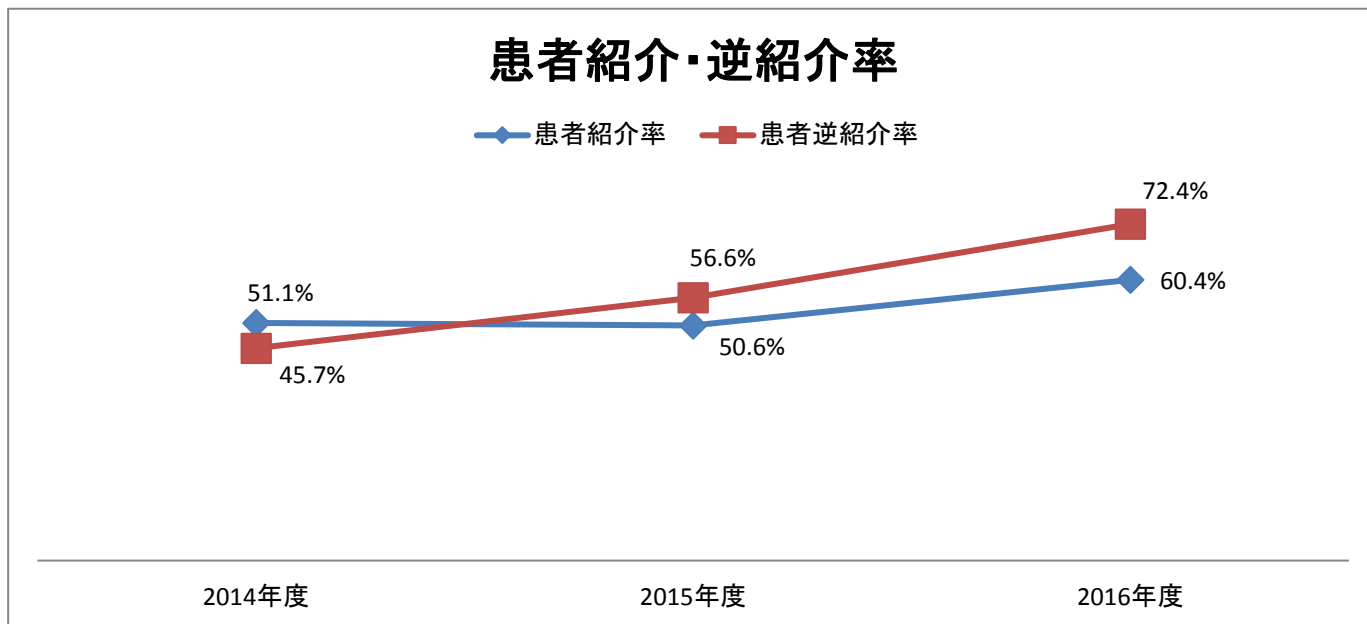
2013年にオープンした別館には救急外来とCT室を1Fに配置しており救急車が来院してすぐに画像診断と一次処置を行う事ができます。急患が心疾患の場合、別館2Fの血管撮影室へすぐに搬送する事ができ緊急のカテーテル治療やバイパス手術に対応します。また、別館2Fは本館にも連絡しており外科的処置が必要な場合は、迅速に手術室への移送も可能です。このように建物構造の特徴を活かした導線により短時間での緊急処置を行う事が出来ます。



院内 BLS 研修の様子

日本循環器学会が発行するBLSプロバイダー資格を所持する職員で組織した「BLS チーム」が全職員を対象に心肺蘇生と一次救命処置に関する研修を年12回開催しています。

また、当院は医療従事者の救命技術向上に寄与するため、日本循環器学会のBLSプロバイダーコースの受講会場として使用されております。



■ 地域医療機関との役割分担を進め急性期機能を強化

患者紹介率・逆紹介率の指標は、地域の医療機関から新患として紹介を受けた患者さんと荻窪病院で急性期の治療を終えた方、より高度で専門的な検査や治療が必要な患者さんを他院に紹介した比率を示しています。

政府は 2014 年に可決された医療介護総合確保推進法により、予測される医療需要に応じて医療圏ごとの病床の機能調整と配置に取り組んでおり、今後数年間で各医療機関はその機能が特定されます。日々の日常的な診察や疾患相談については地域のかかりつけ医が受け持ち、荻窪病院のような急性期病院は急患やかかりつけ医から紹介を受けた患者の治療を担う事となります。

そのためには医療機関同士が連携しそれぞれの役割を最大化する事が必要です。2016 年度は 2015 年度と比較し紹介率において 9.8%、逆紹介率において 15.8%向上しました。

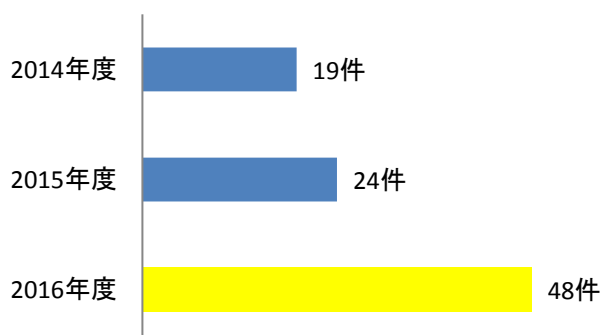


第 9 回荻窪病院 医療懇話会の様子
(2017 年 12 月 7 日 開催)

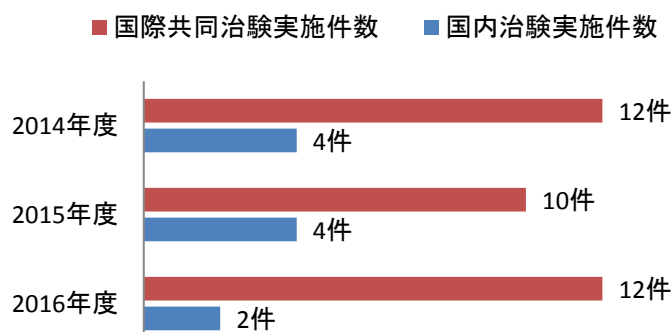
毎年 1 回定期に開催している医療懇話会では地域の開業医の先生方を対象に当院の事業方針と各科の医師から症例の報告を行っています。地域医療を支える開業医の先生方との情報交換を通じて、顔の見える連携を心がけ相互に協力補完できる関係作りを目指しています。

※本指標は地域医療支援病院の認定に必要な定義式で集計しております。

臨床研究実施件数



治験実施件数



製造販売後調査実施件数

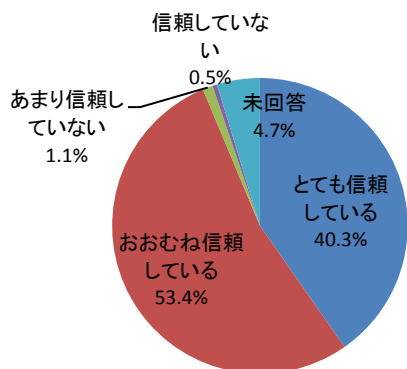


■ 治験事務局の役割について

治験事務局では、新しい薬を国に承認申請するための臨床試験や承認された薬の安全性や有効性を調査するための製造販売後調査、病気の予防・診断・治療方法の改善や病気の原因の解明、患者さんの生活の質の向上を目的とした臨床研究に取り組んでおります。

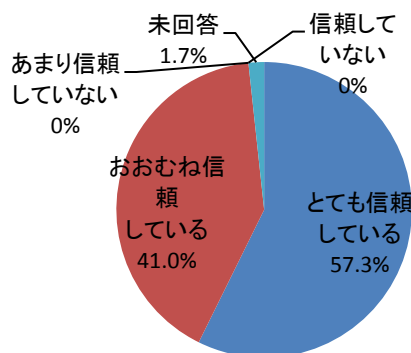
臨床試験を取り巻く環境が変化する中、2015年には人を対象とする医学系研究の倫理指針が改定となりました。臨床研究を実施するルールが変わり荻窪病院の臨床研究における情報公開のあり方を見直しを行いました。荻窪病院で実施している臨床研究は実施診療科の掲示板やホームページでご覧いただく事ができます。

患者満足度調査(外来)



アンケート配布数 451 枚 回収数 444 枚

患者満足度調査(入院)



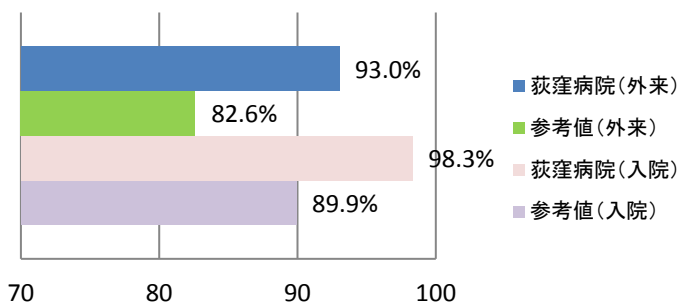
アンケート配布数 378 枚 回収数 117 枚

■ 待ち時間対策と接遇教育を実施

患者満足度調査は毎年 1 回外来を受診された患者さんと退院する患者さんを対象に行っております。

2016 年度は「とても信頼している」と「おおむね信頼している」と回答頂いた比率が外来で 93.7%、病棟において 98.3%となりました。アンケートで多く寄せられるご意見は待ち時間に関するものと職員の接遇に関するもので、2016 年度は待ち時間対策として外来予約票のフォーマット変更を行い、接遇については外部講師を招聘した研修会を全職員向けに開催致しました。

2016年度患者満足度調査結果(比較)



日本病院会が QI プロジェクトで集計した 2016 年度の満足度調査結果との比較 (左記グラフの参考値) を示しています。こちらは荻窪病院の満足度指標である「とても信頼している」と「おおむね信頼している」の合計数値と日本病院会指標の「大変満足」「大変満足または満足」の合計数値の平均値を比較しております。日本病院会 QI プロジェクトに指標提出された施設数は 247 施設でした。



院内接遇研修の様子
(2016 年 8 月 17 日 開催)

2016 年 8 月に外部講師による職員向け接遇研修を開催しました。全部署から参加者を募り約 120 名の職員が研修を受講し研鑽に努めました。



患者さん、ご利用者の方から頂いたご意見への回答と対応は本館外来 1 F の掲示板に不定期に掲載しております。